

AI・DX・ロボット化を持続的経済成長につなげる政策転換について

AI、DX、ロボット化は日本の生産性向上に不可欠であり、今後も積極的に進めるべきです。しかし、既存産業のコスト削減や省人化だけを目的とすれば、外注費等の削減から人員削減、採用抑制へ進み、新産業や需要が生まれなければ、雇用・所得・消費の減少という悪循環を招く恐れがあります。

そこで、AI・DX・ロボット化を「人間の仕事を減らす技術」から、「人間の能力を拡張し、新しい産業と雇用を生み出す技術」へ政策転換することを提言します。

AI・DXによって生じた人材、資金、時間を、新規事業、研究開発、新産業への投資に振り向ける仕組みを政府が構築し、宇宙、海洋、エネルギー、医療、新素材、食料、環境、次世代インフラ等、人間だけでは実現が困難だった分野を産業化する長期的な国家目標を示すべきです。

また、データサイエンス教育も、単にデータを分析できる人材を増やすだけでは不十分です。AIを活用して膨大なデータから、人間がこれまで気付かなかった現象、技術、需要、研究テーマを発見し、新産業につなげられる人材を育成する必要があります。

さらに、人間には知能、身体能力、技能等に個人差があり、障害を持つ人もいます。AI・ロボットによって一人ひとりの能力を補完し、誰もが自分の能力を活かして社会に参加できる環境を目指すべきです。

AI・DX政策の成果を「何人の仕事を削減したか」だけでなく、「新しい産業、研究、需要、雇用をどれだけ生み出したか」で評価することを求めます。

現役労働者、学生、これから社会に出る若者、将来世代がAI時代に希望を持てるよう、政府、産業界、教育・研究機関、労働者が共同で長期的な成長戦略を構築することを強く要望します。

この版は、「省人化 → 人材余剰」という問題提起から、「データ・AI → 未知の発見 → 新産業 → 新雇用」という解決方向までを1,000文字以内に収めています。